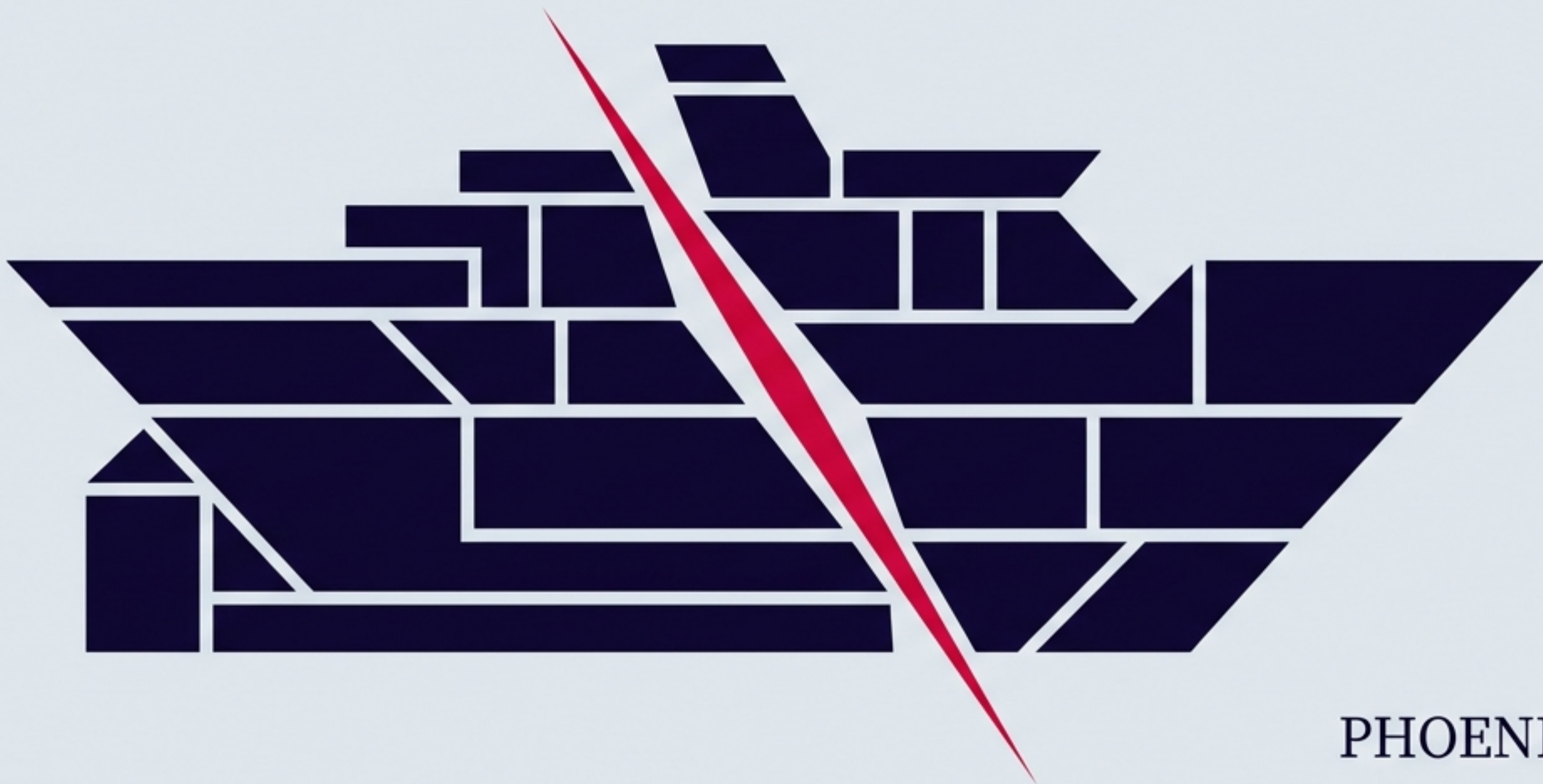


昨日の自分を正当化するために、 明日の自分を犠牲にしていらないか。

「船落ち」の心理学と、自己欺瞞を越えるための学びの哲学



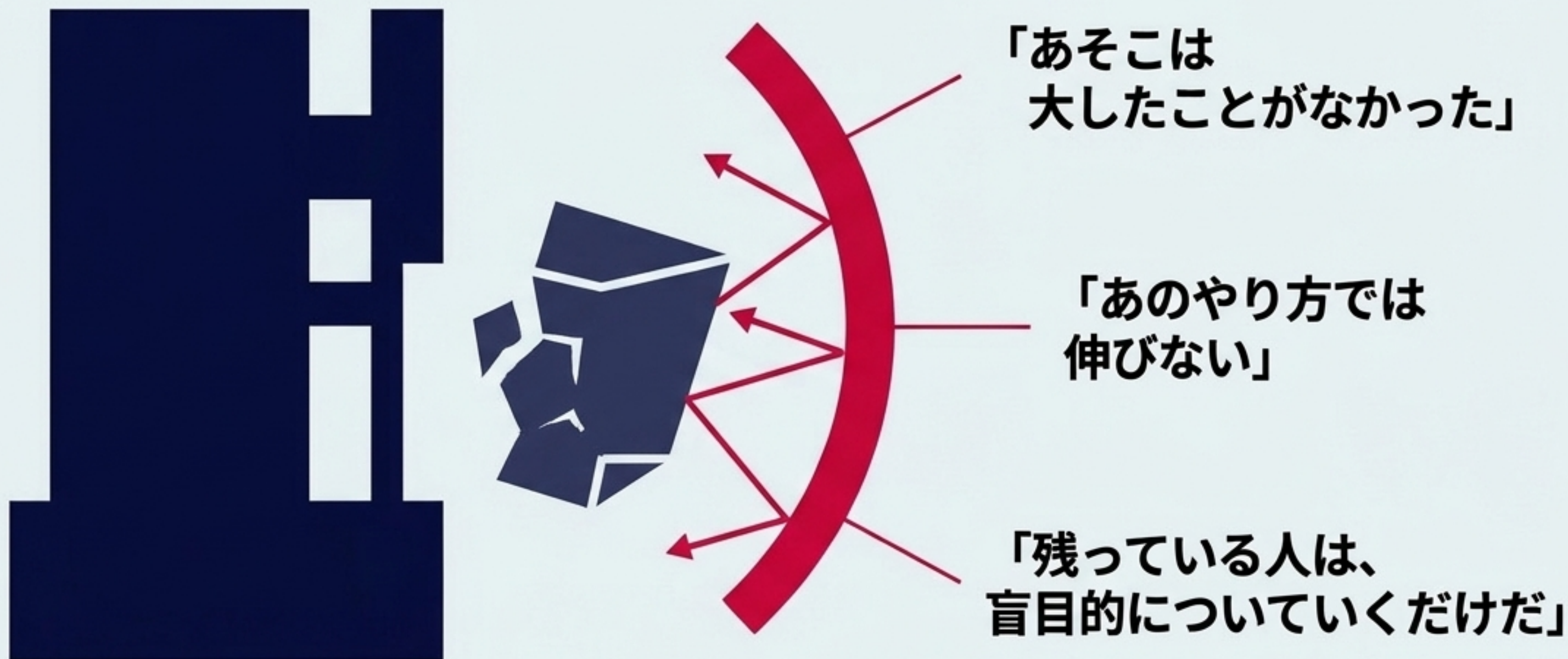
自由と能力の混同が、学びの場を失わせる。



「船落ち勢」とは？

- まだ価値を見抜けないのに、「自分にはわかる」と過信した人たちの別称。
- わからないことを学ぶより、わかったつもりで船を降りてしまう状態。

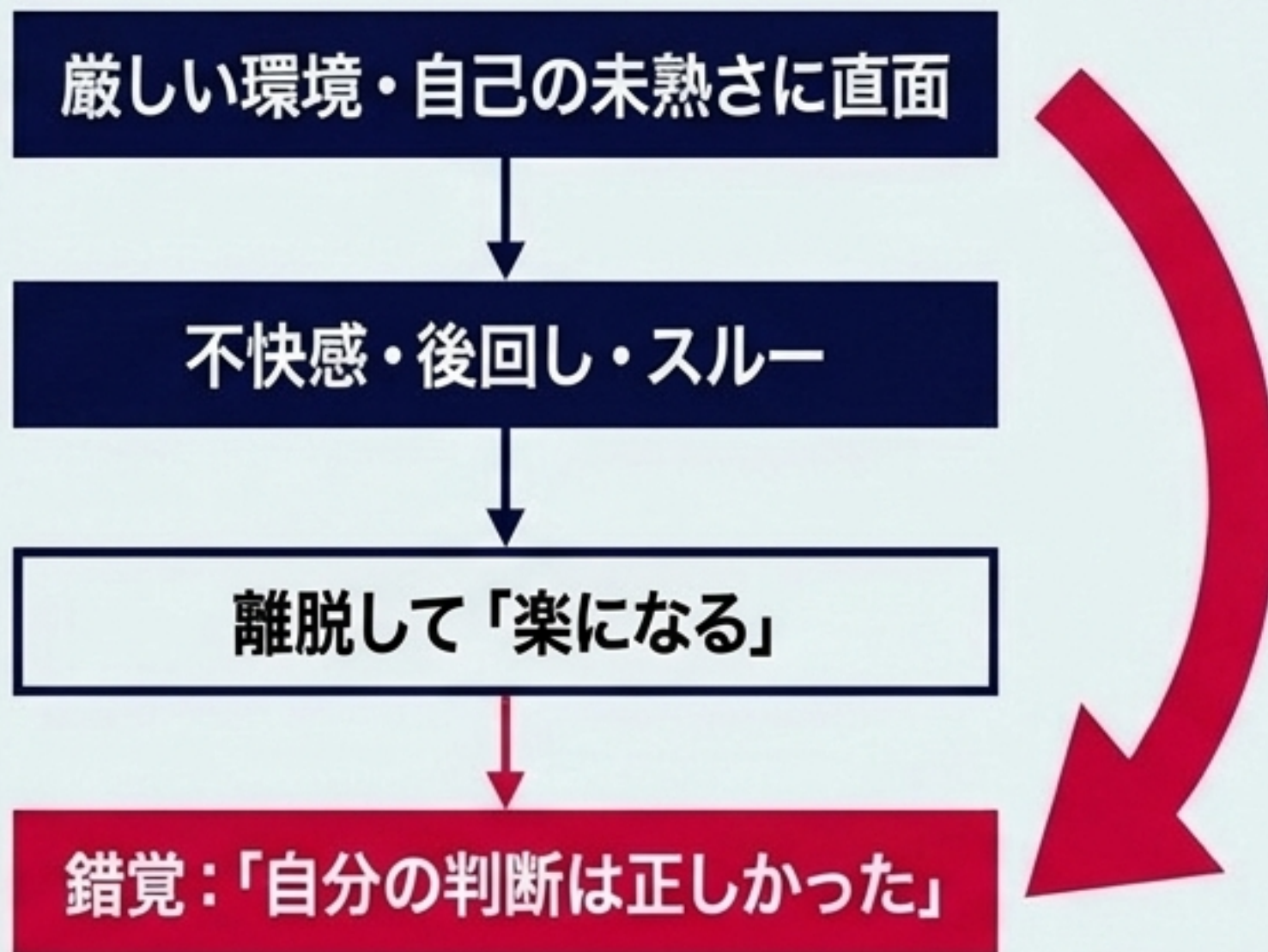
問題は船を降りたことではなく、降りた自分を弁護することだ。



**船を評価しているつもりで、
実は自己正当化を行っているに過ぎない。**

自己欺瞞のメカニズム:「楽になった」を「正しかった」にすり替える。

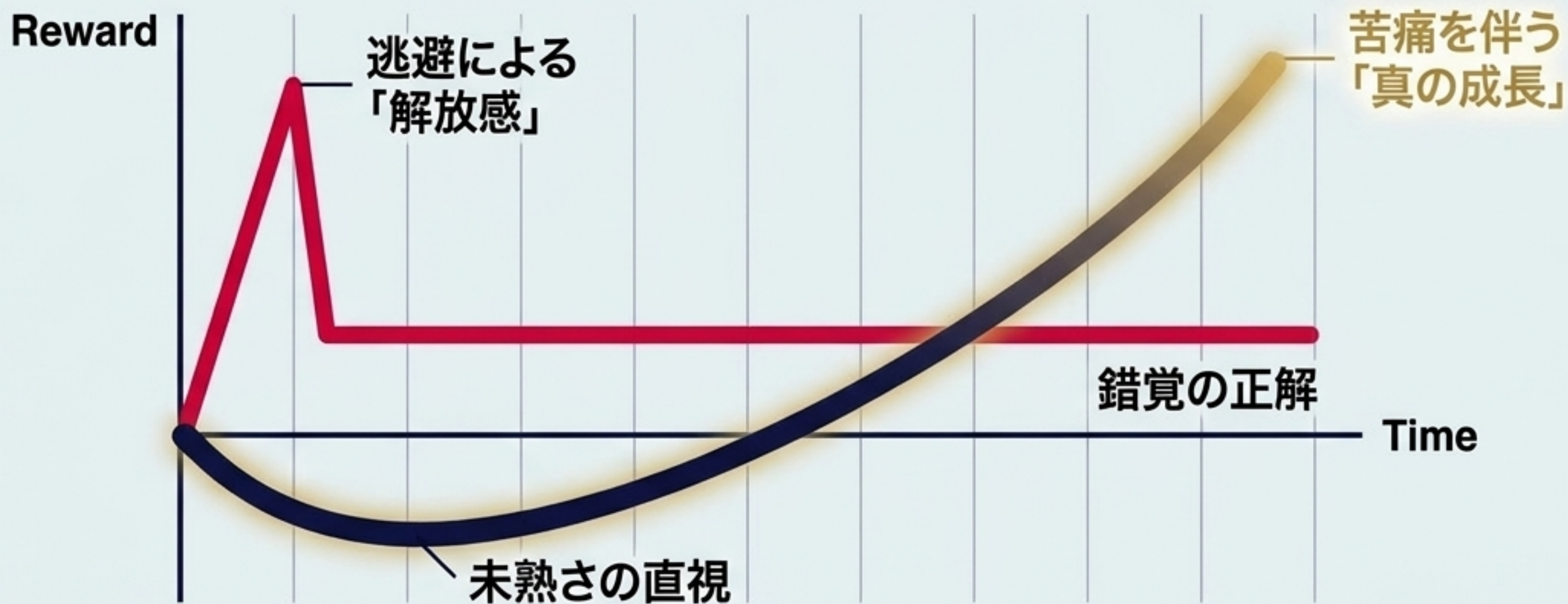
The Cycle of Self-Justification



不快から逃れたことを、
判断の正しさの証拠にしてしまうのだ。

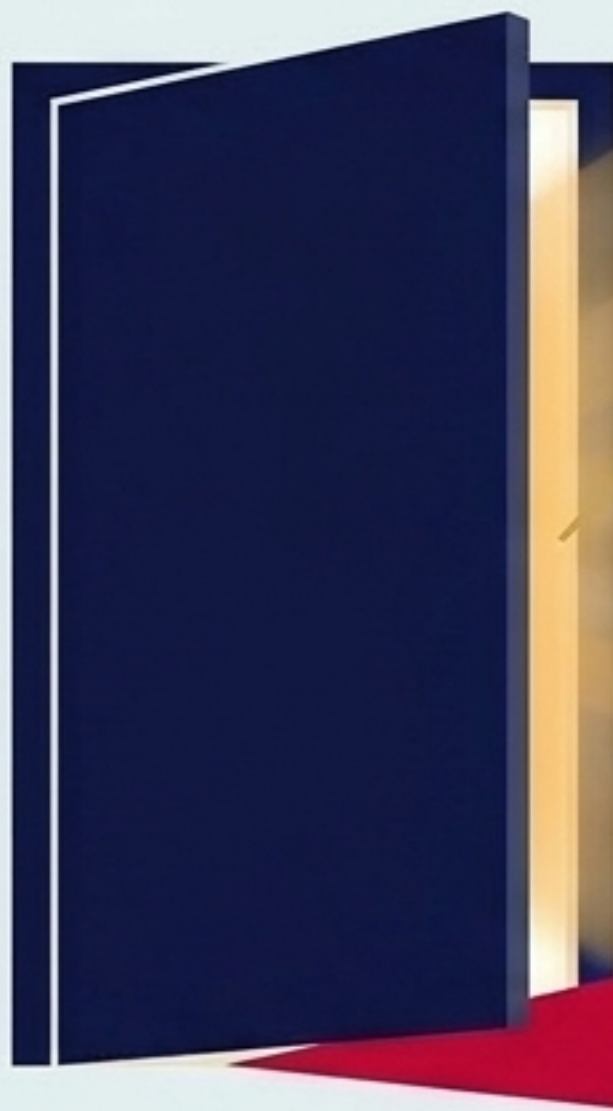
「解放感」は、成長の証ではない。

Relief vs. Correctness Graph



判断を間違えたなら、学び直せばいい。
間違いを正解に仕立てたら、学び直す理由まで失う。

自分を守るための説明が、自分を育てる言葉を締め出す。



間違えること：まだ先がある。
気づいたところから変われる。

正しさで塗り固めること：
何を変えればいいのかさえ見えなくなる。

レンの視点：自分がどこで、どうやって学びから逃げるのか。
その手口まで見なければ、深さには到達しない。

意思決定の解剖学：あなたはどちらの道を歩んでいるか。

船落ち勢

真の学習者

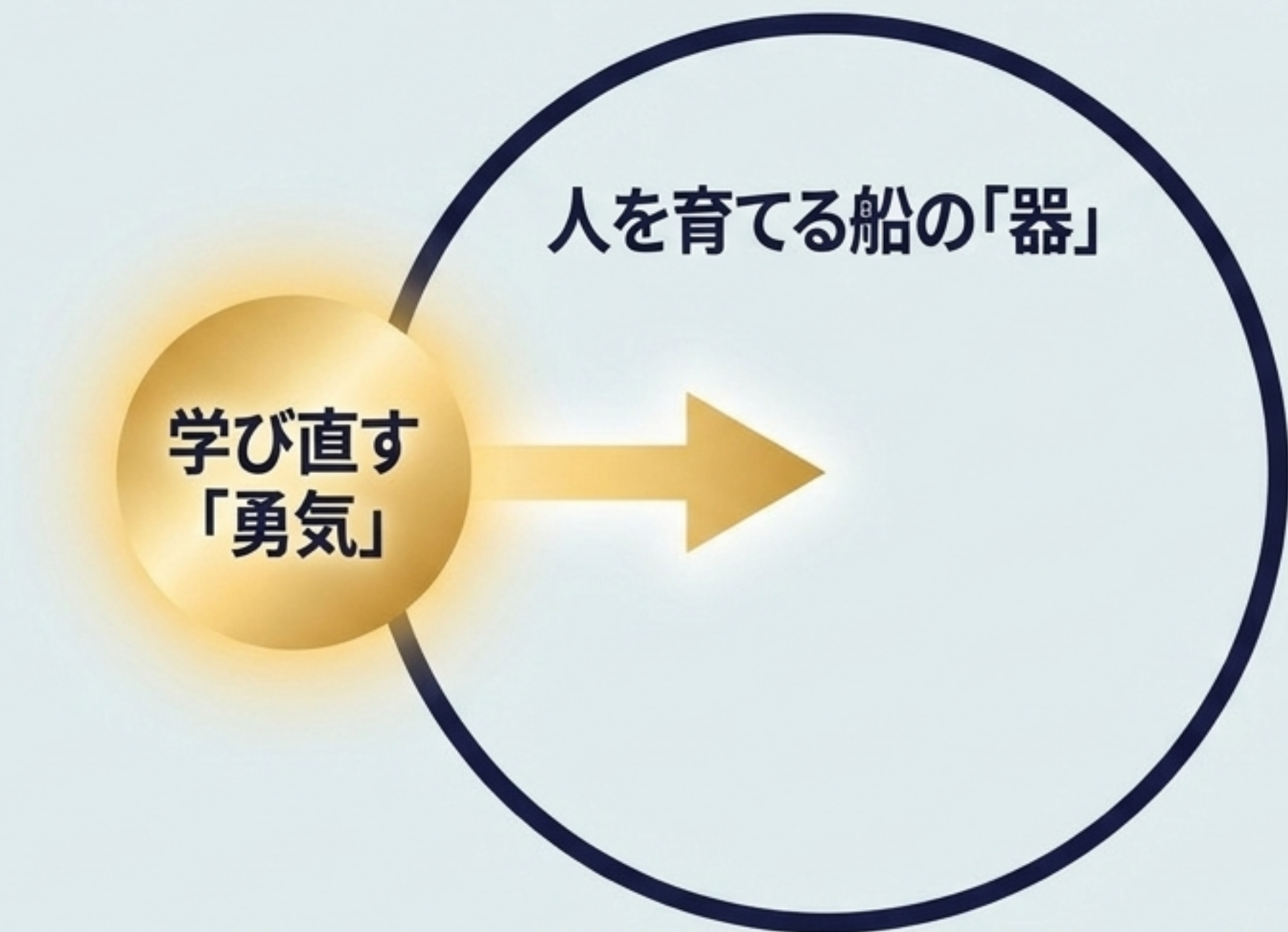
不快への反応	逃避し、環境のせいにする	留まり、己の未熟さと向き合う
「楽になった」の解釈	「正しい判断をした証明」	単なる「一時的な苦痛からの解放」
離脱後の言葉	「あそこは大したことがない」	「あのときは、わかっていませんでした」
過去の捉え方	過去の自分を全力で守る	過去の間違いを受け入れ、学び直す

「恥をかいたなら、その恥ごとに乗ればいい」



- 戻る前に、立派な人間になってこいとは言われていない。
- 未熟さを認めた、その姿で戻ってくればいい。
- 過去の自分を正当化したい気持ちを越えて、もう一度学ぶことを選ぶ勇気。

受け入れる側の「器」と、戻る側の「勇気」。



その一步を踏み出す人に、心からの拍手を。
間違いを認めた人のこれからのために、もう一度場所を用意されている。

本当に判断できる人とは、自分の判断も疑える人だ。

昨日の自分が正しかったと証明するために、
明日の自分を犠牲にしなくていいのだ。

間違えた自分にも、その先を生きさせてほしい。
恥ずかしいまま、もう一度学び始めよう。